

学 校 紹 介

椎葉村立尾向（おむかい）小学校 宇都宮 浩

本校は、日本三大秘境の一つである椎葉村にある児童数20名の学校である（完全複式）。椎葉村の中心である上椎葉（役場や椎葉小がある地区）から、さらに30分かけて奥に入り、熊本県と接する地にある。学校横には耳川の源流が流れ、冬には雪が積もるなど自然豊かな土地である。令和4年9月の台風14号で甚大な被害を受け、3日間の休業を余儀なくされた。日向市方面から椎葉村に入るには、現在でも迂回路を通行する必要がある。

140年以上の伝統を誇る学校であり、様々な活動が引き継がれている。中でも有名かつ大がかりな活動である焼畑体験活動と令和4年度から始めたリモート学習（椎葉村ユニット学習）を紹介する。

1 焼畑体験学習

本校の焼畑体験学習は、本年度で35回目を迎えた。椎葉村で行われてきた焼畑は、東南アジア等で行われている「焼きっぱなし」「環境破壊につながる」ものとは全く違う。山を焼いた後に1年目はソバ、2年目はヒエやアワ、3年目はアズキ、4年目は大豆を育てる。その後、30年ほど土地を休ませて、元の森林に戻る。農業を全く使わないので動植物への影響が少なく、循環型農業として高い評価を受けており、平成27年に世界農業遺産に指定された「高千穂郷・椎葉山」の一つの要因にもなっている。環境教育の教材としても価値のある活動である。

PTAによる焼畑地の選定に始まり、活動のメインとなる「火入れ・種まき」を7月下旬に行う。火を扱うので、地元消防団の協力も得る。大地の神に祈りをささげた後に、6年生児童とその保護者が火を入れる。広大な焼畑地に火が広がる様子は圧巻である。昼食後、まだ暖かさの残る灰の上にソバの種をまく。

その後は、9月に花の観察をしたあと10月中旬に収穫を行いソバの実をとるために「あやし」という作業を行う。

11月下旬には「収穫祭」を行い広く地域の方などお呼びする。焼畑に関する発表会のあと、石臼でソバの実を挽いたり、そば粉をこねてそばにしたりゆでたりしてそばが完成する。そばを作る過程には、地元の高齢者の皆様に協力していただく。そばには地元で捕れたイノシシの肉も入っており絶品である。このような活動を通して、循環型農業のよさを知り、ふるさとを愛する心を育てている。

また、農耕地の少ない椎葉の地で、先人たちが苦勞して食料を得てきた歴史に触れる貴重な機会でもある。楽しさだけでなく農作業のたいへんさを体感することができる素晴らしい活動である。

近年、児童数・保護者数が減少傾向にあり、今後の継続に向けての方策を模索しているところである。

2 リモート学習（椎葉村ユニット学習）

豊かな体験をしている本校の児童であるが、学力に関しては課題がある。複式学級であることもあり、児童の学力向上が喫緊の課題である。課題解決の手立てとしてICTの活用を進めている。AI型ドリルの活用による基礎的な学力の定着に加えて、椎葉村内の他の小学校とオンラインでつないで学習するリモート学習「椎葉村ユニット学習」にも力を入れている。高学年の社会科において、約10km離れた不土野（ふどの）小学校とペアを組み、それぞれの担任が単一年年の児童を指導することで複式指導の解消を図っている。児童はオンラインでの学習に慣れ、自分の考えを臆することなく話し、相手の学校の児童と進んで意見交換する姿が見られる。また、全学年で（2学年ごとの）道徳のユニット学習も行っており、多様な意見に触れる機会をつくっている。基礎学力とコミュニケーション力の向上のために、ICTの積極的な活用を進めている。

